



編集：飯能消防団広報委員会 発行：平成17年11月15日

かわらばん

第
12
号

新生 飯能消防団

11分団3部



11分団2部



11分団本部



11分団1部



入団式



平成17年4月1日から第11分団(名栗地区)が仲間入りしました。

第十一分団を紹介しします

第十一分団は、三部体制、ポンプ車二台・小型ポンプ積載車三台、団員六十七名で活動しています。

第十一分団となるまでの過程を紹介します。

明治二十七年に消防組規則が公布され、三組からなる私設消防組を組織したのが、旧名栗村内における消防の歴史の始まりとなります。その後、名称変更、組織の変更がありました。昭和十四年に第二次世界大戦の影響もあり、消防だけでなく警護も行う「名栗消防団」を三百十五名により設置いたしました。そして、昭和二十二年に消防組織法が制定され、警防団を「消防団」と改め定員二百名、五分団体制として、名栗消防団がスタートしました。

その後、昭和四十九年に、団員を二百名から百五十名、分団を五分団から三分団となる組織の改正がありました。この組織体制については、その後、若干の変更はありまし

たが、名栗消防団が解団するまでの体制です。

この間、埼玉消防協会などより特別優良消防団としての表彰及び無火災表彰を受けました。

また、埼玉消防操法大会での準優勝や支部大会における優勝など諸先輩方の、輝かしい歴史があります。

平成八年に埼玉西部広域事務組合が設立され、平成十二年には、名栗地区念願の常備消防「飯能消防署名栗分署」が開署し、名栗消防団においては、団員数が百名となりました。



合併前に、飯能消防団への統合に向けて飯能消防団と名栗消防団による様々な協議が行われ、第十一分団の骨格が

できあがりしました。そして、三月に名栗消防団の解団式を行いました。



四月から、第十一分団としてスタートし、半年が経ちました。この間、団長をはじめ幹部の方々からのご指導、また、他の分団の方々からのご支援、ご協力をいただき分団の運営が順調にスタートしています。

今後も郷土愛護の精神を持ち、新井分団長を中心に一致団結し名栗地区の消防活動に努めてまいります。

力を貸して！

地域のためにがんばろう

私たち飯能消防団は、総勢三百九十名の団員が活躍しています。消防団員はそれぞれ職業や家庭を持ちながら、地域住民の生命・財産を守る「地域防災のスペシャリスト」を目指してがんばっています。

実際には、仕事と消防団活動との両立はたやすくはありません。でも、みんなで助け合い、地域や家族の人たちの協力を受けながら、一人ひとりが充実した日々を送っています。

消防団は、消火活動の他に、夜間のパトロール、飯能まつりや奥むさし駅伝の警備など、様々な活動を通じて、地域の人たちからの期待を担って活動しています。

もちろん、そのための訓練や講習をしっかり受けて、万が一の時も安全にすばやく行動できるようにがんばっています。

楽しいこともたくさんあります。消防団では団員同士

コミュニケーションを図るため、アイズニールランドツアー、バーベキューなど年間を通して様々なレクリエーションが企画されています。

苦しいことも楽しいことも、みんなで一緒に経験していく中で、すばらしい仲間が生まれ、それが自分の中でとても大切なモノに変わっていきます。そして、仲間との出会いを通じて、今まで知らなかった自分を見つけられます。

新入団員のひとつが「消防団に入って良かった」と感じています。ほんの少しの勇気があれば、あなたもきっとすばらしい感動を味わえます。

テレビ画面から流れる地震や台風による災害現場の映像を見て何かを感じたことはありませんか？「助けてあげたい、何か力になりたい」と感じた人はすでに立派な消防団員です。だって、その気持ちは私たち消防団員と同じだから。

「大切な人を命がけで守り抜く気持ちがあるなら、愛する人やその想いが息づく地域のために力を貸して！」

そんなこともしてたんだけ？ そういやあ見かけたな

第一分団 原町・前田・中山

地域への協力として夏、秋の祭り、大晦日のお焚き上げの警備をしています。また、昨年から自主防災訓練で避難場所への誘導や初期消火訓練のお手伝いをしています。学校の避難訓練では、小学生に放水体験もしてもらっています。

第三分団 三白(河原町・宮本町・大河原・本郷)

各種訓練、飯能まつりや奥むさし駅伝の警備、そして自主防災組織との合同訓練も行っています。また、親睦旅行やゴルフ、夏は飯能河原でバーベキューと団員の結束も強化しています。

第四分団 第三区(永田・永田台)

自治会主催の防災訓練に参加し、避難訓練、初期消火訓練を行っています。消防活動以外でも、盆踊り大会、お祭りなどの警備、交通整理など各自治会とも交流を深めています。また、小瀬戸地区には、歴史のある活動の盛んな小瀬戸自治消防隊があります。消防隊との合同訓練、情報交換等にも力を入れています。

第五分団 南高麗

祭礼警備を年数回行っています。山車の引きまわし、花火の打ち上げ、初詣の際のお焚き上げ等、事故や火災のお



△第2分団



△第7分団

第六分団 加治

飯能団の中で平均年齢が一番若いので、活発に色々な活動が行われています。その中でもフットサルは大変な盛り上がりを見せ、チームが結成されました。その他にも家族参加のスキーツアー、デイズニールランドツアーなどを開催しています。地域の活動ではお祭りや盆踊りの警備に携わり、加治地区体育祭では、消防操法の展示も行っています。

第七分団 精明

地区の各種催しに協力しています。双柳神社と妙見様の

第八分団 原市場

夏祭り、浅間地区、平松地区の盆踊りの警備をしています。サッカーチームを持つ唯一の分団で、フットサルの大会にも参加しています。月に数回練習をし、腕を磨いています。

第九分団 栗吉野

毎年旅行、隔年でバーベキュー、各部で会食や懇親会をし、親睦を図っています。毎年四月には全団員の顔写真、活動内容等を掲載した広報紙「九分団だより」を発行、祭りの警備、体育祭への参加など地域の方々との交流を図っています。山間部に位置するため、山火事を想定した中継放水訓練等を行い、無線機やヘッ

第十分団 吾野

各祭典の準備及び警備、盆踊り等の模擬店参加や体育祭では、各競技に参加し、部対抗のリレーも行っています。近年の駐在所廃止に伴い、治安維持の為、週数回消防車による警戒や現役団員とOB会との放水訓練や懇親会を通じ、結束を強めて災害防止に努めています。

第十一分団 名栗

夏に家族を交えてのバーベキューを行い、大変好評を得ています。地域のお祭りや行事の警備などを通じて地域の方々と密着した活動を行っています。



△第6分団

消防団詰所所在地紹介

第七分団一部・第十二分団二部

精明地区、第七分団一部の詰所を紹介します。

今年度より旧一部と旧二部が合併し、新たに一部として活動することになりました。

新詰所は、今年の三月に完成し、四月から一部の活動拠点として活躍しています。場所は、平松と川崎との境近くで精明小学校の北側を通る道路に面しています。

建物は一階建てで、積載車用車庫と会議室があります。

団員一同心機一転、新しい活動拠点と新しいメンバーで、



△第7分団1部

日々訓練し地元地区の安全と災害予防のため頑張ります。

名栗地区、第十二分団二部の詰所を紹介します。

この詰所は、平成十五年三月に完成し、二部ポンプ車班の活動拠点となっています。

場所は、県道青梅秩父線と県道南川名栗線の交差点の対岸道路に面しています。

建物は一階建てで、ポンプ車用車庫と会議室があります。

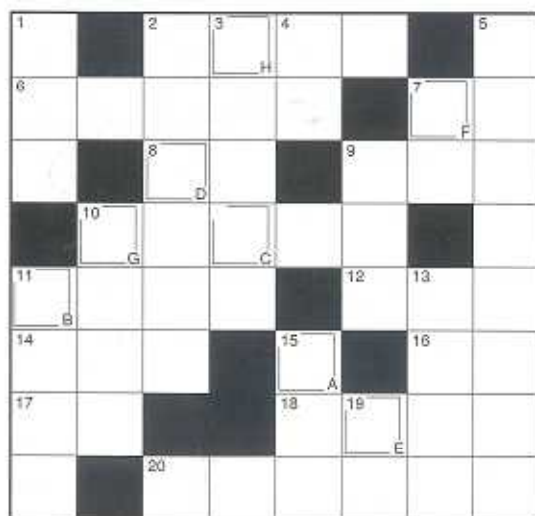
日頃から、この詰所を活動拠点とし、地元地区の予防消防活動などに努めています。



△第11分団2部

消防団プレゼントクイズ

◆クロスワードパズル◆



答え: ○○○○○○○○○

問題

縦と横のカギをたよりに、パズルを解いてください。すべてのマス目を埋めて、8コの二重マスの文字をアルファベット順に並べると、「消防団がいち早く駆け付ける言葉」になります。

縦のカギ

- 盤ゲームでチップが白と黒、シェイクスピアの4大悲劇
- 6ヶタそろえて大もうけ
- 黙って座ればビタリと当たる
- 今どきの若いもんはマユ毛を〇〇
- 我らが消防団の最大行事
- 「マスター、今夜は〇〇にしといて」
- 噛めば噛むほど味が出る
- 都会からさわめて遠い場所
- 甘酒の原料
- 取っ組み合いのケンカで頭に〇〇〇〇をつかった
- 頭の毛が薄い人がかぶるもの
- 韓国のタレント、〇〇ソナ

横のカギ

- 炎を出して溶けて小さくなるもの
- プロ野球日本シリーズで戦うのはパシフィックと?
- 正月準備に餅を〇〇
- 手を変え、〇〇を変え
- エロイ
- 大阪弁でぶっとばすこと
- 手先を動かして、小さいものを作る職人
- 注意して見守る点、目標、ポイント
- 悪口を言うこと
- スイッチ、〇〇!
- このオニギリにはお〇〇が入っている
- 毎年7月の中旬、気象庁で出す宣言
- 飯能市のシンボル、標高194.8m.

正解者の中から30名様に、豪華賞品(?)をさしあげます。
 官製はがきにクイズの答えと、〒住所・氏名・年齢・職業(学年)・電話番号・消防団に対するご意見ご感想を明記して、下記の宛先までご応募ください。
 締め切り:平成18年1月8日(日)出初式まで。
 宛 先:〒357-0015 飯能市大字小久保291番地
 防災センター 消防団プレゼントクイズ係

編集後記

飯能消防団の一人となつて早七か月、飯能と名栗の間を走ってきた。

時に組織の大きさの違いを感じることもあったが、地元を愛する気持ちや責務の重さに違いはない。

このかわらばん発行にあたり会議を重ね、歪も重ね、良い仲間にも恵まれて行く度に二十一キロの距離も近く感じてきた。暖かく迎えてもらえたことに感謝。

副団長 浅見 直行

編集委員

団本部班長	西野 利行
団本部班長	宮田 康司
第一分団	岩淵 昌司
第二分団	小槻 成克
第三分団	平沼 正行
第四分団	新井 靖幸
第五分団	植竹 里志
第六分団	堀川 康浩
第七分団	小川 達也
第八分団	西 長武
第九分団	須田 雄三
第十分団	菊地 晴男
第十一分団	大野 裕司

※題字は吉田行男様にご協力をいただきました。